道徳的価値観に基づく政治的分極化の発生
—研究レビューと新たな理論的枠組みの提供—

笠原 伊織（名古屋大学 大学院情報学研究科，kai21.rilh@gmail.com）
唐沢 穣（名古屋大学 大学院情報学研究科，mkarasawa@nagoya-u.jp）

Political polarization based on moralized attitudes:
A literature review and a new theoretical perspective

Iori Kasahara (Graduate School of Informatics, Nagoya University, Japan)
Minoru Karasawa (Graduate School of Informatics, Nagoya University, Japan)

Abstract

Numerous studies have been conducted over the past few decades to understand how social and political values contribute to political polarization. In modern society, where social divisions are rampant, it is crucial to reveal the psychological underpinnings of political polarization, its negative impact on democracy, and how it can be mitigated. Values concerning socio-political issues are often linked to moral judgments, which can frame one's attitudes toward the issues as a matter of "right" versus "wrong." Such framing significantly contributes to political polarization because different viewpoints are, by definition, mutually exclusive for moralized values (A "right" attitude *must* be accepted, and a "wrong" attitude *cannot* be accepted). Research has consistently demonstrated that moral convictions can harm interpersonal and intergroup relations and lead to social network fragmentations. This paper reviews recent research on moral conviction, particularly emphasizing its impact on interpersonal and intergroup relations as well as social network compositions. We then highlight the roles of motivations to form a shared reality with communication partners as a potential psychological foundation of political polarization, especially concerning attitudes held with moral convictions. Finally, we discuss how fragmented social networks can recursively affect interpersonal and intergroup relations through obtained sense of shared reality.

Key words

political polarization, attitudes, moral convictions, shared reality, social networks

1. 導入

近年、社会・政治的価値観の相違に基づく対立が深刻な問題となっている。ある程度の意見の相違は活発な議論を導くために有益である一方で、異なる価値観を持つ人々が互いに否定的な態度を持つことは、対話を阻害し民主主義社会に悪影響を及ぼす。このような政治的分極化（political polarization）は、「分断の時代」とも言われる現代において極めて重要な研究課題の一つである。政治的分極化がどのような心理的過程に基づいて生じ、民主主義にどのような悪影響を及ぼすのか、政治的分極化を緩和・解消していくためにはどのような介入が有効なのか、といった諸テーマは、いずれも現代社会における喫緊の課題である。政治的分極化は、二大政党制社会であるアメリカの政治的文脈で盛んに研究がおこなわれてきた一方で（Iyengar et al., 2019; Jost et al., 2022 を参照）、近年ではヨーロッパや東アジアの多党制社会でも感情的対立を示唆する知見が蓄積されており（例えば、Gidron et al., 2019; Huddy et al., 2018; 笠原他，印刷中 ; Knudsen, 2021; Reiljan, 2020）、アメリカ社会に限定的な現象ではないと考えられる。本稿では、政治的な分断状況の発生や維持に貢献する個人の心理プロセスについて、道徳的価値観の役割に着目して議論するとともに、対人関係や集団間関係、社会的ネットワークなど、多様なレベルでの政治的分極化の発生を理解するための新たな理論的枠組みを提供することを目的とする。

社会問題への態度や政治信条は、人々が社会という「場」を共有する中で、しばしば、「社会の在り方や向かうべき方向性として、何が『正しい』のか」といった形で道徳的な価値判断を伴う。社会・政治的価値観を道徳的な正しさの観点からフレーミングすることは、異なる価値観を持つ個人や集団間の対立を激化させることが明らかにされている（Garrett & Bankert, 2020; Skitka et al., 2005）。道徳的な価値観が政治的分極化の発生に果たす役割について、近年活発に研究がおこなわれている一方で（Finkel et al., 2020; Kovacheff et al., 2018）、国内における研究は萌芽的状況にあり、今後の研究が不可欠である。本稿では、まず、社会・政治的価値観の異同や、価値観を道徳的観点から理解することが、対人関係や集団間関係のレベルで政治的分極化を深刻化させ、長期的に社会的ネットワークの構造に影響を及ぼすことを、先行研究を紹介しつつ論じる。次に、対人関係、集団間関係のレベルで生じる政治的分極化を統一的に理解するための理論的枠組みとして、Hardin & Higgins（1996）が提唱した共有現実理論（shared reality theory）に着目し、政治的分極化の発生が「世界観」の構築や維持に向けた動機づけの結果であり、道徳的価値観についてこの動機づけが特に強くはたらく可能性について論じる。最後に、分極化した社会的ネットワークが再帰的に対人関係や集団間関係に及ぼす影響に

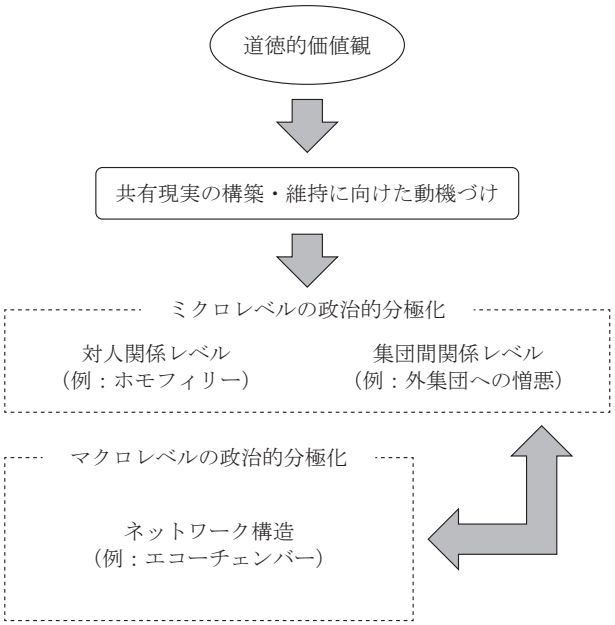

図 1：本稿における各概念間の関連（イメージ）

ついて、獲得された共有現実感の役割に着目して議論する（図 1）。

本稿における「政治的分極化」という用語の定義と議論する研究の範囲について、それぞれ補足する。まず、用語の定義について、「政治的分極化」は①個別のイシューへの態度やイデオロギーが「賛成派と反対派」や「保守とリベラル」などの集団間で乖離すること（issue/ideological polarization）、②社会・経済的地位や地域など、さまざまな次元に基づいていた社会・政治的価値観が「党派性」という単一次元に基づくようになること（partisan alignment）、③自身と価値観を共有する人々に肯定的な態度を向けたり、価値観を共有しない人々に否定的な態度を向けたりすること（affective polarization）、という複数の定義が可能である（Jost et al., 2022 を参照）。本稿では、特に③の側面に焦点を当てて、後述する社会的ネットワーク上でのエコーチェンバーの発生といったマクロな現象としての側面だけでなく、個人による対人関係の選択や、集団状況に置かれた際の外集団への否定的反応など、ミクロレベルの現象までを含めた広範な概念として「政治的分極化」を捉えて議論の対象とする（図 1 も参照）。なお、政治的な分断状況は、政治的システムや歴史的背景など、国や地域ごとに異なる環境的・構造的要因によって支えられている側面もあると考えられるが、先述した通り、本稿の焦点は政治的分極化に関わる心理プロセスにあることから、そうした側面については、本稿では、議論の対象から除外している。加えて、本稿の焦点は、社会・政治的価値観の異同や、価値観を道徳的観点から理解することが、対人関係や集団間関係、社会的ネットワークの構造といった「社会的つながり」に及ぼす影響にあったことから、メディアへの選択的接触（selective exposure）のような関連領域の研究は、本稿ではレビューの対象外とした。

2. 政治的分極化の発生と道徳的価値観の役割

基本的に、人々は何らかの側面で自身に類似した他者を好み、そうした他者と関係を形成しやすいことが知られている。ホモフィリー（homophily）と呼ばれるこうした傾向は、さまざまな特徴に関して観察されるが（McPherson et al., 2001）、特に、社会・政治的価値観について頑健に観察され、友人や恋愛パートナー、配偶者の選択など、多くの場面で影響力を持つことが明らかにされている（Alford et al., 2011; Bahns et al., 2017; Huber & Malhotra, 2017; Byrne, 1961 も参照）。

社会・政治的価値観の異同は、人々の「対話」にも影響を及ぼす。さまざまな価値観を持つ人々が同じ社会の中で生きていくうえで、対話は共通基盤（common ground）を形成するという極めて重要な役割を果たす。しかし、人々はしばしば、自身と異なる価値観を持った他者との対話を好まず、さらには、そうした他者に否定的な態度を向ける場合があることが明らかにされている。例えば、Frimer et al.（2017, Study 5）は、同性婚の合法化に関して、参加者自身と同様の立場を表明している他者との対話には関心が示される一方、異なる立場を表明している他者との対話は動機づけられにくいことを示している。他にも、Iyengar et al.（2012）は、異なる党派性を持つ他者には「子どもの結婚相手として家族に入ってきてほしくない」などの形で社会的距離（social distance）が大きくとられやすいことを明らかにしている。最近では、このような党派性の違いは政治的態度とは無関係の領域でも他者への否定的態度を導くことが示されているほか（例えば、Carlin & Love, 2018; McConnell et al., 2018; Shafranek, 2021）、異なった価値観を持つ他者への不寛容は、政治的イデオロギーが保守的な人々とリベラルな人々の双方において観察されることが明らかにされている（Brandt et al., 2014）。また、居住地の流動性が高いアメリカでは、自身の政治的イデオロギーが居住地域において共有されていないという認識が、居住地移動を動機づけるという結果も示されている（Motyl et al., 2014; Motyl, 2016 も参照）。

このように、社会・政治的価値観の異同は、人々の間の社会的つながりに大きな影響を及ぼす。冒頭で述べたように、社会問題への態度や政治信条には、しばしば「自身の考えこそが正しく他の考えは間違っている」という道徳的価値判断が伴う。道徳判断は「良いか悪いか」、「正しいか間違っているか」といった形で二項対立的におこなわれる性質を持ち、誰もが共有している、また共有しているべき一般的ルールとして絶対視される傾向がある（Skitka et al., 2021; Van Bavel et al., 2012）。そのため、道徳的な観点から社会・政治的価値観を理解することは、自身の価値観への過剰なコミットメントや、他の価値観への強い不寛容性を導くことで、政治的分極化の激化につながると考えられる。このような「ある事柄が正しいか間違っているか、道徳的か不道徳かについての強く絶対

的な信念」は道徳的確信と呼ばれ（moral conviction, Skitka et al., 2005: 896）、政治的分極化への影響に関して、近年、活発に研究が進められている。次節以降では、社会・政治的価値観とその道徳化が政治的分極化の発生や深刻化に果たす役割について、対人関係と集団間関係のレベルで実施された先行研究を紹介し、その後、それが長期的に社会的ネットワークの構造に及ぼす影響について検討する。

2.1 対人関係への影響

人々の価値観に道徳的ニュアンスが伴うことは、多くの研究で明らかにされている。例えば、道徳基盤理論（Moral Foundations Theory）に基づく先行研究では、人々の社会・政治的問題への態度が、道徳基盤への支持と関連していることを示している（Koleva et al., 2012）。他にも、Bruchmann et al.（2018）は、政治的態度が類似した他者には「自身と同じ道徳基盤を支持している」という推論がなされ、それが相手への好感度を高めることを示している。

道徳的確信に関する先行研究では、態度への道徳的確信を直接的に評定尺度で尋ねることで（例.「〇〇に関するあなたの立場は、あなたが根底に持っている道徳的な信念や信条をどのくらい反映していますか？」）、それが価値観を共有しない他者への不寛容につながることを明らかにしてきた。例えば、Skitka et al.（2005）は、社会・政治的問題について態度の不一致を経験したとき、道徳的確信が強いほど、異なる態度を持つ他者との社会的距離が大きくとられやすいことを示している。加えて、当該論文で報告されている他の研究では、道徳的確信は自己報告に基づく社会的距離だけでなく、異なる態度を持つ他者との物理的距離の拡大も生じさせることが示されている。道徳的確信が価値観を共有しない他者への否定的態度に及ぼす影響は、その後の研究でも再現されており（例えば、Skitka et al., 2013; Wright et al., 2008; Zaal et al., 2017）、頑健な現象であると言える。

また、道徳的価値観は、新奇な他者との対人関係の形成においてのみならず、既存の集団やコミュニティの内部における対立の発生にも寄与することが知られている。例として、Zaal et al.（2017）は、女性参加者を対象に、自身のフェミニスト的な価値観への道徳的確信を他の女性たちが共有していないと感じることで、「女性」という社会的カテゴリーへの同一視が低下することを示している。また、自身のフェミニスト的な価値観に賛同することを「道徳的義務」として理解する傾向が、価値観を共有しない他者に対するネガティブ感情と結びついていることを明らかにしている（道徳的確信と感情の関連については、Ryan, 2014 も参照）。他にも、Haidt et al.（2003）では、道徳的確信を測定していないものの、大学生を対象とした調査において、大学における性別や人種などデモグラフィックな次元における多様性は好まれやすい一方、道徳的次元での多様性は好まれにくく、道徳的価値観を共有しない他者との対話意図は低くなりやすいことを示している。

以上の知見から、新たな対人関係の形成、あるいは既存の集団内部での対人関係の調整において、態度への道徳的確信が、価値観を「共有する人々」と「共有しない人々」を選り分け、それぞれに対して異なる態度を向けることに寄与していることが分かる。このことは、例えば「賛成派と反対派」といった態度に基づく意見集団（opinion-based groups）の形成と、そうした集団間の関係に重要な示唆を与える。道徳的価値観に基づく集団は、定義上、「正しい私たち（us）」と「間違っている彼ら／彼女ら（them）」という対立的構造を生じさせるため、単に「強い」態度とは異なり、内集団への好意的反応と同時に外集団への否定的反応を伴いやすいと考えられる。次節では、こうした点について検討する。

2.2 集団間関係への影響

人々が、自身と集団性を共有する他者に対して好意的な反応を示すことは、内集団ひいき（in-group favoritism）として広く知られている。先行研究では、内集団ひいきなど内集団成員に対する好意的反応（内集団への愛：in-group love）には、必ずしも外集団成員に対する敵意的反応（外集団への憎悪：out-group hate）が伴わないことを明らかにしてきた（Brewer, 1999 を参照）。しかし、道徳的価値観に基づく集団に関しては、内集団への愛に加えて外集団への憎悪が生じることが明らかにされている。例えば、Parker & Janoff-Bulman（2013）は、野球の球団間のライバル関係のように道徳的価値観の対立を伴いにくい関係と比べると、社会問題に関する立場や党派間関係など道徳的価値観の対立を伴いやすい関係では、外集団へのネガティブ感情が強く報告されることを示している。また、経済ゲームを用いた Weisel & Böhm（2015）でも、ライバル関係にあるフットボールチームのファンであることを基準に集団の成員性を定義した場合と比べ、対立する党派性を持つことを基準に集団成員性を定義した場合に、外集団への敵意的反応が強く見られることを示している。

これらの研究は、社会・政治的価値観の対立が外集団に対する否定的態度を導くことを示している一方で、道徳的確信やそれに関連する変数を測定していないため、外集団への敵意的反応が実際に道徳的価値観の対立に基づいて生じたものであるかは明らかでない。しかし、近年の研究では、社会・政治的価値観への道徳的確信や、対立意見が自らの道徳的価値観に反しているという感覚が、外集団に対する否定的態度を生じさせることを明らかにしている。例えば、Wetherell et al.（2013）は、イデオロギー的に対立する集団への差別が、当該の集団が自身の基本的価値観に違反しているという感覚に基づいて生じることを示している。また、Garrett & Bankert（2020）は、政治的態度への道徳的確信の強さが、アメリカ人参加者の間で、共和党と民主党への感情、各党の政治家への感情、現職大統領への支持など、さまざまな指標における党派間の態度の乖離や、対立党派の支持者への社会的距

離や敵意を予測することを示している。加えて、Obeid et al.（2017）では、道徳的確信を直接測定していないものの、道徳基盤質問紙（Moral Foundations Questionnaire, MFQ）を用い、宗教的あるいは民族的に対立する集団が、危害の否定や公正さなどの個人志向の道徳基盤（individualizing moral foundations）を共有していないと感じることが、そうした対立集団に所属する人々との間に維持される社会的距離の大きさを予測することを示している。

ここまで示したように、道徳的価値観に基づく集団間の関係においては、内集団への好意的反応と同時に、外集団への敵意的反応が生じ、他の集団と比べて対立的な関係が形成・維持されやすい。このように集団間の関係が敵対的なものとして理解されることは、社会的距離の増大などの回避的反応を生じさせるだけでなく、ときに、対立集団に対する暴力の使用など、本来的には不道徳とされる行動の正当化を促す。社会・政治的価値観を道徳的な善悪の問題として絶対視することが紛争や葛藤の維持に大きな役割を果たしていることは、広く知られている（Atran & Ginges, 2012 を参照）。実証研究においても、社会・政治的価値観に道徳的確信が伴うことで、特に、その価値観が集団内で共有されていると感じた場合に、暴力行為が正当化されることが明らかにされている（Mooijman et al., 2018）。態度への道徳的確信が暴力の使用を容認することにつながる背景として、Workman et al.（2020）は、磁気共鳴機能画像法（functional magnetic resonance imaging, fMRI）を用いた脳活動の分析を通じて、道徳的確信が強くなると、自身の社会・政治的価値観を実現することの主観的価値が大きくなり、結果として、道徳的確信に基づく価値観が「他者を傷つけてはならない」といった基本的な道徳律よりも優先されてしまう可能性を指摘している。

以上の知見から、自身の社会・政治的価値観を道徳的な正しさの観点から捉えることは、個々の対人関係において影響力を持つだけでなく、対立的構造を持った意見集団を生み出し、集団間の葛藤に寄与することが分かる。人々が価値観の一致／不一致に基づいて対人関係を選択し、ときに価値観を共有しない人々に否定的な態度を向けることは、個々の社会的関係に悪影響を及ぼすだけでなく、人々を取り巻く社会的ネットワークの構造にも影響を及ぼすと考えられる。実際に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）が発達した現代では、オンライン上での対人関係の選択が極めて容易におこなえるようになっており、社会・政治的価値観に基づく同質的な社会的ネットワークの形成が深刻な社会問題となっている。このことを踏まえて、次節では、社会・政治的価値観の異同や態度の道徳化が社会的ネットワーク上におけるコミュニティの形成に及ぼす影響について検討する。

2.3 社会的ネットワークの構造への影響

類似した社会・政治的価値観を持つ人々がネットワーク上でまとまりを形成すると、自身の価値観を確証する情報は手元に届きやすくなる一方で、自身の価値観を反証する情報は届きにくくなる。このような同質的ネットワークはエコーチェンバー（echo chambers）と呼ばれ、近年、深刻な社会問題となっている（Boutyline & Willer, 2017; Conover et al., 2011; Cinelli et al., 2021）。先述のように、SNS 上ではフォロー／アンフォローなどの形で対人関係を形成・切断することが容易であり（John & Dvir-Gvirsman, 2015; Zhu et al., 2017 を参照）、政治的話題に関してエコーチェンバーが発生しやすいことが明らかにされている（Barberá et al., 2015）。エコーチェンバーの発生には、プラットフォームの情報呈示アルゴリズムなども重要な役割を果たすことが知られているが、Bakshy et al.（2015）は、Facebook 上の政治系ニュースへのユーザーの接触行動を分析し、自身の価値観に合致しない記事に接触しにくい情報環境は、情報呈示アルゴリズムよりも、ユーザーのホモフィリー傾向によって形成される部分が大きいことを示している。さらに、Sasahara et al.（2021）は、エコーチェンバーの発生モデルを作成してシミュレーションをおこない、他者との「友人」関係を解消可能であることがエコーチェンバーの発生につながり、「友人」から受ける社会的影響（「友人」と同じ方向に自身の態度が変化すること）が、エコーチェンバーの発生を大幅に促進することを明らかにしている。

このように、社会・政治的価値観の異同に基づいて対人関係を形成・切断することは、社会的ネットワークの構造にも影響を及ぼす。いくつかの研究では、道徳的価値観に関しては、同質的なネットワークが顕著に観察されることを示している。例えば、Dehghani et al.（2016）は道徳基盤辞書（Moral Foundations Dictionary, MFD, Graham et al., 2009; Matsuo et al., 2019; Sagi & Dehghani, 2014 も参照）を用いて Twitter（現 X）上でのアメリカの政府機関閉鎖についての投稿を分析し、潔癖・貞節（purity/sanctity）に関する語彙の使用傾向が似たユーザー同士は、社会的ネットワーク上で「友人」や「友人の友人」などの比較的近い関係にある場合が多いことを示している。さらに、MFD と Linguistic Inquiry and Word Count（LIWC, Tausczik & Pennebaker, 2010）を併用して Twitter（X）上の銃規制や同性婚、気候変動についての投稿を分析した Brady et al.（2017）では、感情的ニュアンスを持つ道徳語（道徳感情語）を含む投稿は拡散されやすく、こうした傾向は、特に政治的イデオロギーを共有するユーザーの間で顕著に観察されることを示している。なお、上記の研究では、既存の社会的ネットワークを分析の対象としているため、道徳的確信の強さを直接的に測定していないものの、道徳関連語の使用は、投稿者のトピックに対する道徳的フレーミングを反映していると捉えられることから、道徳的確信の強さを表す一つの指標として考えられる。

以上の知見から、社会・政治的価値観の異同に基づいて対人関係を形成・切断することは、社会的ネットワークの分離に影響を及ぼすこと、そして、この傾向はトピックが道徳的な正しさの観点から理解される場合に顕著に観察されることが分かる。次節から、これまでに紹介した知見を踏まえ、対人関係や集団間関係における政治的

分極化の発生に関する心理的背景について、共有現実理論の枠組みをもとに論じる。最後に、分極化した社会的ネットワークが共有現実感の獲得を促すことで、対人関係や集団間関係に再帰的に影響を及ぼす可能性について議論する。

3. 政治的分極化の発生に関する理論的枠組み

ここまで、社会・政治的価値観の異同が対人関係の形成や維持を決定する重要な基準となっていること、価値観の異同が「私たち（us）」と「彼ら／彼女ら（them）」という区別を生み出し葛藤を生じさせること、価値観に基づいて対人関係を形成・切断することが長期的には社会的ネットワークの分離を引き起こすことを述べ、態度を道徳的観点から理解することが政治的分極化を深刻化させることを指摘した。次節以降では、対人関係や集団間関係における政治的分極化の発生に関する心理的過程を統一的に説明する枠組みとして共有現実理論に着目し、政治的分極化の発生が「世界観」を構築し維持することに向けた動機づけの結果であることを指摘する。次に、社会的ネットワークの分極化は、共有現実感の獲得を促すことで、対人関係や集団間関係に再帰的に影響を及ぼす可能性を指摘する。

3.1 共有現実理論に基づく政治的分極化の説明

自身の価値観を道徳的観点から理解することが政治的分極化を深刻化させる背景としては、さまざまな可能性が考えられる。例えば対人認知の観点から考えると、道徳性は印象形成において最も重要な次元であり（Brambilla et al., 2011; Goodwin et al., 2014; Wojciszke et al., 1998）、価値観を共有しない他者は「道徳性に欠ける」と知覚されるために否定的な反応を導きやすい可能性が考えられる。関連して、Jost et al.（2022）は、政治的分極化には自我正当化、集団正当化、システム正当化という三つの動機が関わっていると指摘している。これらは認知的斉合性理論、社会的アイデンティティー理論、システム正当化理論に基づいて想定され、このことからも、政治的分極化の心理的背景が多様であることが分かる。本稿では、対人関係や集団間関係における政治的分極化の心理的メカニズムを統一的に説明するための理論的枠組みとして、共有現実理論（Hardin & Higgins, 1996）を援用し、政治的分極化の発生が世界観の構築や維持への動機づけの結果であるという新たな視座を提供するとともに、こうした動機づけが道徳的価値観について特にはたらきやすいことを指摘する。

共有現実理論によれば、人間には、世界について正しい理解を持ちたいという認識論的動機（epistemic motive）と円滑で快適な対人関係を形成・維持したいという関係論的動機（relational motive）が存在し、これらを満たすために共有現実感、すなわち、自身と他者がさまざまなトピックや世界について類似した信念や感情を持っているという感覚の獲得へと動機づけられるとされる（Echterhoff et al., 2009; Higgins et al., 2021）。道徳的価値観を共有しない他者は、認識論的動機の観点からは自らに「間違った」情報をもたらす存在として、関係論的動機の観点からは、円滑な対人関係への脅威となりうる存在として、それぞれ否定的反応を導くと考えられる。これらの動機の中で、認識論的動機は集団間関係においても重要な役割を果たす。多くの場合、人は所属集団において共有され「正しい」とされる世界観の中で生きている。その意味で、内集団成員は認識論的動機を満たしてくれる存在であるため、好意的反応が向けられやすい一方、外集団成員は既存の世界観への脅威として、敵意的な反応を向けられやすい（Kruglanski et al., 2006; Dugas & Kruglanski, 2018 も参照）。先述したように、道徳的価値観を共有しない他者には、認識論的動機の観点から否定的反応が生じやすいと考えられることから、このような傾向は、自身の社会・政治的価値観に道徳的確信を持つ人々の間で、顕著に観察されると予測される。

このように、世界観の構築、あるいは、既に構築された世界観の維持という観点から考えると、対人関係や集団間関係のレベルで政治的分極化が発生する背景を統一的に理解することができる。仮に、共有現実の構築や維持への動機づけが政治的分極化の発生に重要な役割を果たしているとすれば、価値観を共有しない他者には、共有現実の構築可能性が低く知覚されると予測される。実際、複数の研究において、このような予測と整合する知見が得られている。例として、Kouzakova et al.（2012）では、利害対立と比べて、価値観の対立を経験した場合、相手の立場への共感や、相手と問題解決に向けた合意が得られる可能性を低く知覚し、対立している領域以外でも、態度の類似性を全般的に低く見積もるようになる、言い換えれば、何事に関しても相手と「分かり合えない」と考えやすくなることを示している。関連して、Finkel et al.（2020）は、党派性が異なる他者を自身とは完全に異なる異質な存在と知覚する「他者化（othering）」の傾向が、政治的分極化の発生に重要な役割を果たしている可能性を指摘している。このように、社会・政治的価値観を共有しない他者は「分かり合えない異質な存在」と知覚されやすく、これは、全般的な世界観についての一般的共有現実感（generalized shared reality, Higgins et al., 2021）が低い状態として理解することができると考えられる。

道徳的価値観については、態度の異同が共有現実の構築可能性の知覚に及ぼす影響がより顕著に見られると考えられる。先述したように、道徳的価値観は誰もが共有しており、また共有しているべき規則として知覚される傾向がある。そのため、価値観を共有しない他者は、共有されていて「当然」の世界観すら共有できない存在と知覚されることで、共有現実の構築可能性を低く見積もられやすいと予測される。実際、いくつかの研究では、道徳的価値観については合意性の過大推測が起こりやすいことや、態度の不一致を経験した場合に相手との差異が強く知覚されることが示されている。例えば、Matsuo et al.（2023）は、MFQ の得点を用いて、ある道徳基盤を重視していると、他者も同様の基盤を重視している

と推論しやすいことを示している。また、Kouzakova et al.（2012）は、価値観に関しては合意性が期待され、態度の不一致には大きな驚きが伴うことを示している。他にも、Graham et al.（2012）は、MFQ の得点を用いて、自身と異なる政治的イデオロギーを持つ他者には、自身と同じ道徳基盤（例．危害の否定）を支持せず、異なる道徳基盤（例．内集団への忠誠）を支持している、という推論が過剰におこなわれることを示している。このように、道徳的価値観に関しては互いに世界観を共有していることが前提とされるため、価値観の相違が顕在化したとき、相手の異質性が過剰に知覚され、それが政治的分極化の発生に寄与している可能性が指摘できる。

3.2 社会的ネットワークの同質性がもたらす再帰的影響

ここまで、社会・政治的価値観の異同や態度の道徳化が政治的分極化の発生や深刻化に及ぼす影響について先行研究をもとに議論し、その心理的背景として、共有現実の構築や維持に向けた動機づけの役割について論じた。また、対人関係や集団間関係における政治的分極化は、長期的には社会的ネットワークの構造にも変化を生じさせ、エコーチェンバーなどの同質的な社会的ネットワークの形成に寄与することを指摘した。しかし、社会的ネットワークの構造は政治的分極化の結果として形成されるものであると同時に、その中に身を置く人々の態度や行動に再帰的に影響を及ぼすものであると考えられる。態度とは固定的なものではなく、周囲の人々がどのような態度を持っているか、自身の価値観がどの程度共有されているかという知覚に応じて変化するものである（Stangor et al., 2001）。類似した価値観を持つ人々によって構成される社会的ネットワークは、そこに身を置く人々の間で共有現実感の獲得を促進し、認識論的動機や関係論的動機を満たすことで対人関係や集団間関係に対して再帰的に影響を及ぼすと考えられる。以下では、同質的なネットワークに身を置くことで態度が固定化し、対人関係や集団間関係における政治的分極化がさらに深刻化する可能性について議論する。

社会的ネットワークの構造が政治的価値観にもたらす影響に着目した研究では、異なる政治的価値観を持つ他者の存在により対立意見への理解が促進され、価値観を共有しない他者への親近感が芽生えることで政治的寛容さを導くことや（Mutz, 2002）、態度の安定性が低くなることが明らかにされてきた（Huckfeldt & Sprague, 2000）。社会的ネットワーク上に異なる価値観を持つ他者がいることで態度の強さが低下することは、実験を通じてネットワーク構造を操作した先行研究でも確かめられており（Visser & Mirabile, 2004）、頑健な現象と考えられる（ただし、Bloom & Levitan, 2011 では、態度を道徳的観点からフレーミングすると、こうした傾向が見られないという結果が得られている）。一方で、人は類似した価値観を持つ他者と関係を形成する傾向があり、社会的ネットワークの同質性は高い状態が「デフォルト」であると考えられる。同質的な環境に身を置く人々は、周囲の他者から自身の態度を確証されやすく、認識論的動機を充足しやすいため、態度の変容が生じにくいと予測される。実際、Huckfeldt & Sprague（2000）は、同質的な環境に身を置く人々は、社会・政治的問題に関して自身の態度が変容する可能性を低く見積もることを示している。関連して、Johnson & Eagly（1989）が実施した説得の効果に関するメタ分析では、価値観については説得効果が生じにくいことが明らかにされている。同質的な社会環境が態度の固定化を招くという知見は、周囲との合意性の知覚がステレオタイプ的な判断の固定化を生じさせることを示した先行研究とも整合的である（Stangor et al., 2001）。

同質的な社会環境は態度変容の可能性を低下させるとともに、社会・政治的問題に関する対話の在り方にも影響を及ぼし、対人関係や集団間関係における政治的分極化の発生や維持に寄与することが明らかにされている。例えば、Hutchens et al.（2019）は、党派間で態度の分極化が生じている状況では、党派性を共有する他者との会話が促進され、結果として、態度の分極化がさらに進行することを示している。また、Bail et al.（2018）では、Twitter（X）上で対立政党の政治家の投稿を拡散する bot アカウントを一定期間フォローすることで、かえって既存の価値観が強化されることを示している。政治的文脈では社会的ネットワークの同質性が高くなりやすいことを踏まえると（Barberá et al., 2015）、この結果は、既に構築された共有現実と矛盾する価値観との接触に伴うバックファイア効果（backfire effect）として解釈できる。道徳的価値観に着目すると、Mooijman et al.（2018）は、自身の道徳的価値観が周囲の他者に共有されていると認識することが、態度への確信を強め、抗議活動における暴力の容認を導くことを示している。自身の道徳的確信が周囲の他者に共有されているという認識が過激主義的態度に及ぼす影響は、他の研究でも確認されており（Atari et al., 2022）、社会的ネットワークの同質性が高いこと、少なくともそれが知覚されることは、道徳的な態度次元では特に、対話それ自体の減少や対話の説得効果の毀損、あるいは、過激主義への傾倒による対話の放棄といったさまざまな形で、政治的分極化の発生とその維持に寄与すると考えられる。

4. 結論

本稿では、社会・政治的価値観の異同や態度の道徳化が対人関係や集団間関係レベルでの政治的分極化に及ぼす影響に関して先行研究をレビューするとともに、こうしたミクロレベルでの政治的分極化が社会的ネットワークというマクロなレベルにおける政治的分極化に及ぼす影響について検討した。その後、政治的分極化の発生に関わる心理的過程について、共有現実理論の枠組みを用いて議論し、同質的な社会環境が、そこに身を置く人々の間で共有現実感の獲得を促進することで、対人関係や集団間関係に再帰的に影響を及ぼす可能性について議論した。「分断の時代」とも言われる現代において、政治的分極化の発生や維持のプロセスを解明することは、政治

的分極化の将来的な緩和や解消に向けた手がかりを得るために極めて重要である。今後、政治的分極化における共有現実感の役割について、実証研究の推進が求められる。

謝辞

本稿の執筆にあたって、日本学術振興会科学研究費助成事業（22H01073 および 19KK0063）の支援を受けた。加えて、本論文の初稿について、佐藤洋大氏と穆一諾氏（ともに名古屋大学大学院情報学研究科）からコメントをいただいた。ここに記して感謝する。

引用文献

Alford, J. R., Hatemi, P. K., Hibbing, J. R., Martin, N. G., & Eaves, L. J. (2011). The politics of mate choice. *The Journal of Politics*, 73 (2), 362-379.

Atari, M., Davani, A. M., Kogon, D., Kennedy, B., Ani Saxena, N., Anderson, I., & Dehghani, M. (2022). Morally homogeneous networks and radicalism. *Social Psychological and Personality Science*, 13 (6), 999-1009.

Atran, S. & Ginges, J. (2012). Religious and sacred imperatives in human conflict. *Science*, 336 (6083), 855-857.

Bahns, A. J., Crandall, C. S., Gillath, O., & Preacher, K. J. (2017). Similarity in relationships as niche construction: Choice, stability, and influence within dyads in a free choice environment. *Journal of Personality and Social Psychology*, 112 (2), 329-355.

Bail, C. A., Argyle, L. P., Brown, T. W., Bumpus, J. P., Chen, H., Hunzaker, M. B. F., Lee, J., Mann, M., Merhout, F., & Volfovsky, A. (2018). Exposure to opposing views on social media can increase political polarization. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 115 (37), 9216-9221.

Bakshy, E., Messing, S., & Adamic, L. A. (2015). Exposure to ideologically diverse news and opinion on Facebook. *Science*, 348 (6239), 1130-1132.

Barberá, P., Jost, J. T., Nagler, J., Tucker, J. A., & Bonneau, R. (2015). Tweeting from left to right: Is online political communication more than an echo chamber? *Psychological Science*, 26 (10), 1531-1542.

Bloom, P. B.-N. & Levitan, L. C. (2011). We're closer than I thought: Social network heterogeneity, morality, and political persuasion. *Political Psychology*, 32 (4), 643-665.

Boutyline, A. & Willer, R. (2017). The social structure of political echo chambers: Variation in ideological homophily in online networks. *Political Psychology*, 38 (3), 551-569.

Brady, W. J., Wills, J. A., Jost, J. T., Tucker, J. A., & Van Bavel, J. J. (2017). Emotion shapes the diffusion of moralized content in social networks. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 114 (28), 7313-7318.

Brambilla, M., Rusconi, P., Sacchi, S., & Cherubini, P. (2011). Looking for honesty: The primary role of morality (vs. sociability and competence) in information gathering. *European Journal of Social Psychology*, 41 (2), 135-143.

Brandt, M. J., Reyna, C., Chambers, J. R., Crawford, J. T., & Wetherell, G. (2014). The ideological-conflict hypothesis: Intolerance among both liberals and conservatives. *Current Directions in Psychological Science*, 23 (1), 27-34.

Brewer, M. B. (1999). The psychology of prejudice: Ingroup love and outgroup hate? *Journal of Social Issues*, 55 (3), 429-444.

Bruchmann, K., Koopmann-Holm, B., & Scherer, A. (2018). Seeing beyond political affiliations: The mediating role of perceived moral foundations on the partisan similarity-liking effect. *PLOS ONE*, 13 (8), e0202101.

Byrne, D. (1961). Interpersonal attraction and attitude similarity. *The Journal of Abnormal and Social Psychology*, 62 (3), 713-715.

Carlin, R. E. & Love, G. J. (2018). Political competition, partisanship and interpersonal trust in electoral democracies. *British Journal of Political Science*, 48 (1), 115-139.

Cinelli, M., De Francisci Morales, G., Galeazzi, A., Quattrociocchi, W., & Starnini, M. (2021). The echo chamber effect on social media. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 118 (9), e2023301118.

Conover, M., Ratkiewicz, J., Francisco, M., Goncalves, B., Menczer, F., & Flammini, A. (2011). Political polarization on Twitter. *Proceedings of the International AAAI Conference on Web and Social Media*, 5 (1), 89-96.

Dehghani, M., Johnson, K., Hoover, J., Sagi, E., Garten, J., Parmar, N. J., Vaisey, S., Iliev, R., & Graham, J. (2016). Purity homophily in social networks. *Journal of Experimental Psychology: General*, 145 (3), 366-375.

Dugas, M. & Kruglanski, A. W. (2018). Shared reality as collective closure. *Current Opinion in Psychology*, 23, 72-76.

Echterhoff, G., Higgins, E. T., & Levine, J. M. (2009). Shared reality: Experiencing commonality with others' inner states about the world. *Perspectives on Psychological Science*, 4 (5), 496-521.

Finkel, E. J., Bail, C. A., Cikara, M., Ditto, P. H., Iyengar, S., Klar, S., Mason, L., McGrath, M. C., Nyhan, B., Rand, D. G., Skitka, L. J., Tucker, J. A., Van Bavel, J. J., Wang, C. S., & Druckman, J. N. (2020). Political sectarianism in America. *Science*, 370 (6516), 533-536.

Frimer, J. A., Skitka, L. J., & Motyl, M. (2017). Liberals and conservatives are similarly motivated to avoid exposure to one another's opinions. *Journal of Experimental Social Psychology*, 72, 1-12.

Garrett, K. N. & Bankert, A. (2020). The moral roots of partisan division: How moral conviction heightens affective polarization. *British Journal of Political Science*, 50 (2), 621-640.

Gidron, N., Adams, J., & Horne, W. (2019). Toward a comparative research agenda on affective polarization in mass publics. *APSA Comparative Politics Newsletter*, 29, 30-36.

Goodwin, G. P., Piazza, J., & Rozin, P. (2014). Moral character

predominates in person perception and evaluation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 106 (1), 148-168.

Graham, J., Haidt, J., & Nosek, B. A. (2009). Liberals and conservatives rely on different sets of moral foundations. *Journal of Personality and Social Psychology*, 96 (5), 1029-1046.

Graham, J., Nosek, B. A., & Haidt, J. (2012). The moral stereotypes of liberals and conservatives: Exaggeration of differences across the political spectrum. *PLOS ONE*, 7 (12), e50092.

Haidt, J., Rosenberg, E., & Hom, H. (2003). Differentiating diversities: Moral diversity is not like other kinds. *Journal of Applied Social Psychology*, 33 (1), 1-36.

Hardin, C. D., & Higgins, E. T. (1996). Shared reality: How social verification makes the subjective objective. In R. M. Sorrentino & E. T. Higgins (Eds.), *Handbook of motivation and cognition, Vol. 3: The interpersonal context* (pp. 28-84). The Guilford Press.

Higgins, E. T., Rossignac-Milon, M., & Echterhoff, G. (2021). Shared reality: From sharing-is-believing to merging minds. *Current Directions in Psychological Science*, 30 (2), 103-110.

Huber, G. A., & Malhotra, N. (2017). Political homophily in social relationships: Evidence from online dating behavior. *The Journal of Politics*, 79 (1), 269-283.

Huckfeldt, R., & Sprague, J. (2000). Political consequences of inconsistency: The accessibility and stability of abortion attitudes. *Political Psychology*, 21 (1), 57-79.

Huddy, L., Bankert, A., & Davies, C. (2018). Expressive versus instrumental partisanship in multiparty European systems. *Political Psychology*, 39 (S1), 173-199.

Hutchens, M. J., Hmielowski, J. D., & Beam, M. A. (2019). Reinforcing spirals of political discussion and affective polarization. *Communication Monographs*, 86 (3), 357-376.

Iyengar, S., Lelkes, Y., Levendusky, M., Malhotra, N., & Westwood, S. J. (2019). The origins and consequences of affective polarization in the United States. *Annual Review of Political Science*, 22 (1), 129-146.

Iyengar, S., Sood, G., & Lelkes, Y. (2012). Affect, not ideology: A social identity perspective on polarization. *Public Opinion Quarterly*, 76 (3), 405-431.

John, N. A. & Dvir-Gvirsman, S. (2015). “I don’t like you any more”: Facebook unfriending by Israelis during the Israel-Gaza conflict of 2014. *Journal of Communication*, 65 (6), 953-974.

Johnson, B. T. & Eagly, A. H. (1989). Effects of involvement on persuasion: A meta-analysis. *Psychological Bulletin*, 106 (2), 290-314.

Jost, J. T., Baldassarri, D. S., & Druckman, J. N. (2022). Cognitive-motivational mechanisms of political polarization in social-communicative contexts. *Nature Reviews Psychology*, 1 (10), 560-576.

笠原伊織・三浦拓海ガナー・唐沢穣（印刷中）．多党制社会における感情的分極化の発生―道徳的確信の役割に着目して―．心理学研究．

Knudsen, E. (2021). Affective polarization in multiparty systems? Comparing affective polarization towards voters and parties in Norway and the United States. *Scandinavian Political Studies*, 44 (1), 34-44.

Koleva, S. P., Graham, J., Iyer, R., Ditto, P. H., & Haidt, J. (2012). Tracing the threads: How five moral concerns (especially Purity) help explain culture war attitudes. *Journal of Research in Personality*, 46 (2), 184-194.

Kouzakova, M., Ellemers, N., Harinck, F., & Scheepers, D. (2012). The implications of value conflict: How disagreement on values affects self-involvement and perceived common ground. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 38 (6), 798-807.

Kovacheff, C., Schwartz, S., Inbar, Y., & Feinberg, M. (2018). The problem with morality: Impeding progress and increasing divides. *Social Issues and Policy Review*, 12 (1), 218-257.

Kruglanski, A. W., Pierro, A., Mannetti, L., & De Grada, E. (2006). Groups as epistemic providers: Need for closure and the unfolding of group-centrism. *Psychological Review*, 113 (1), 84-100.

Matsuo, A., Kitamura, H., Yui, N., & Kumagaya, S. (2023). Moral common sense: Examining the false consensus effect of morality in Japan. *International Journal of Psychological Studies*, 15 (2), 22-29.

Matsuo, A., Sasahara, K., Taguchi, Y., & Karasawa, M. (2019). Development and validation of the Japanese Moral Foundations Dictionary. *PLOS ONE*, 14 (3), e0213343.

McConnell, C., Margalit, Y., Malhotra, N., & Levendusky, M. (2018). The economic consequences of partisanship in a polarized era. *American Journal of Political Science*, 62 (1), 5-18.

McPherson, M., Smith-Lovin, L., & Cook, J. M. (2001). Birds of a feather: Homophily in social networks. *Annual Review of Sociology*, 27 (1), 415-444.

Mooijman, M., Hoover, J., Lin, Y., Ji, H., & Dehghani, M. (2018). Moralization in social networks and the emergence of violence during protests. *Nature Human Behaviour*, 2 (6), 389-396.

Motyl, M. (2016). Liberals and conservatives are (geographically) dividing. In P. Valdesolo & J. Graham (Eds.), *Social psychology of political polarization* (pp. 7-37). Routledge.

Motyl, M., Iyer, R., Oishi, S., Trawalter, S., & Nosek, B. A. (2014). How ideological migration geographically segregates groups. *Journal of Experimental Social Psychology*, 51, 1-14.

Mutz, D. C. (2002). Cross-cutting social networks: Testing democratic theory in practice. *American Political Science Review*, 96 (1), 111-126.

Obeid, N., Argo, N., & Ginges, J. (2017). How moral percep-

tions influence intergroup tolerance: Evidence from Lebanon, Morocco, and the United States. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 43 (3), 381-391.

Parker, M. T. & Janoff-Bulman, R. (2013). Lessons from morality-based social identity: The power of outgroup "hate," not just ingroup "love." *Social Justice Research*, 26 (1), 81-96.

Reiljan, A. (2020). 'Fear and loathing across party lines' (also) in Europe: Affective polarisation in European party systems. *European Journal of Political Research*, 59 (2), 376-396.

Ryan, T. J. (2014). Reconsidering moral issues in politics. *The Journal of Politics*, 76 (2), 380-397.

Sagi, E. & Dehghani, M. (2014). Measuring moral rhetoric in text. *Social Science Computer Review*, 32 (2), 132-144.

Sasahara, K., Chen, W., Peng, H., Ciampaglia, G. L., Flammini, A., & Menczer, F. (2021). Social influence and unfollowing accelerate the emergence of echo chambers. *Journal of Computational Social Science*, 4 (1), 381-402.

Shafranek, R. M. (2021). Political considerations in nonpolitical decisions: A conjoint analysis of roommate choice. *Political Behavior*, 43 (1), 271-300.

Skitka, L. J., Bauman, C. W., & Sargis, E. G. (2005). Moral conviction: Another contributor to attitude strength or something more? *Journal of Personality and Social Psychology*, 88 (6), 895-917.

Skitka, L. J., Hanson, B. E., Morgan, G. S., & Wisneski, D. C. (2021). The psychology of moral conviction. *Annual Review of Psychology*, 72 (1), 347-366.

Skitka, L. J., Liu, J. H., Yang, Y., Chen, H., Liu, L., & Xu, L. (2013). Exploring the cross-cultural generalizability and scope of morally motivated intolerance. *Social Psychological and Personality Science*, 4 (3), 324-331.

Stangor, C., Sechrist, G. B., & Jost, J. T. (2001). Changing racial beliefs by providing consensus information. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 27 (4), 486-496.

Tausczik, Y. R. & Pennebaker, J. W. (2010). The psychological meaning of words: LIWC and computerized text analysis methods. *Journal of Language and Social Psychology*, 29 (1), 24-54.

Van Bavel, J. J., Packer, D. J., Haas, I. J., & Cunningham, W. A. (2012). The importance of moral construal: Moral versus non-moral construal elicits faster, more extreme, universal evaluations of the same actions. *PLOS ONE*, 7 (11), e48693.

Visser, P. S. & Mirabile, R. R. (2004). Attitudes in the social context: The impact of social network composition on individual-level attitude strength. *Journal of Personality and Social Psychology*, 87 (6), 779-795.

Weisel, O. & Böhm, R. (2015). "Ingroup love" and "outgroup hate" in intergroup conflict between natural groups. *Journal of Experimental Social Psychology*, 60, 110-120.

Wetherell, G. A., Brandt, M. J., & Reyna, C. (2013). Discrimination across the ideological divide: The role of value violations and abstract values in discrimination by liberals and conservatives. *Social Psychological and Personality Science*, 4 (6), 658-667.

Wojciszke, B., Bazinska, R., & Jaworski, M. (1998). On the dominance of moral categories in impression formation. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 24 (12), 1251-1263.

Workman, C. I., Yoder, K. J., & Decety, J. (2020). The dark side of morality: Neural mechanisms underpinning moral convictions and support for violence. *AJOB Neuroscience*, 11 (4), 269-284.

Wright, J. C., Cullum, J., & Schwab, N. (2008). The cognitive and affective dimensions of moral conviction: Implications for attitudinal and behavioral measures of interpersonal tolerance. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 34 (11), 1461-1476.

Zaal, M. P., Saab, R., O'Brien, K., Jeffries, C., Barreto, M., & van Laar, C. (2017). You're either with us or against us! Moral conviction determines how the politicized distinguish friend from foe. *Group Processes & Intergroup Relations*, 20 (4), 519-539.

Zhu, Q., Skoric, M., & Shen, F. (2017). I shield myself from thee: Selective avoidance on social media during political protests. *Political Communication*, 34 (1), 112-131.

受稿日 : 2024 年 5 月 27 日
受理日 : 2024 年 8 月 5 日
発行日 : 2024 年 12 月 25 日

Copyright © 2024 Society for Human Environmental Studies

This article is licensed under a Creative Commons [Attribution-Non-Commercial-NoDerivatives 4.0 International] license.

https://doi.org/10.4189/shes.22.143